

ニュースレター ぶどうの木



第24号

2024年12月



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」
(ヨハネ福音書15章5節)



クリスマスはなぜ「メリー」なのか ークリスマスを迎える心ー

学長 渡邊 頼純

12月1日(日)はキリストの降誕を待ち望みそれに向けて心の準備をする「待降節」(英語ではAdvent)の最初の日曜日でした。本学ではこの日に「藤Open Research Forum (ORF)」を札幌市内の地下街「チ・カ・ホ」で開催し、教職員・学生が一体となって藤の教育研究の成果を広く歩行者たちに紹介しました。その意味ではORFが大学としての待降節の行事の一つになったと言えるかもしれません。

学生の皆さんもきっとクリスマスを楽しみにしていらっしゃるでしょう。すでに街中ではデパートやショッピングモールなどでクリスマスに向けた飾りつけが大々的に行わ

れており、きれいなイルミネーションやクリスマスツリーが人々を惹きつけています。街中に「メリー・クリスマス」(Merry Christmas)のサインが溢れて、人々は徐々に何となくうきうきした気持ちになってきていますね。

本学でも12月2日(月)には北16条キャンパスの玄関ホールでクリスマスツリーの点灯式が行われ、大勢の学生が参加しました。

一般的には12月24日のクリスマス前夜祭である「クリスマス・イヴ」にお祝いすることが多いと思いますが、そのお祝いの仕方は日本と欧米諸国では相当異なっています。日本ではクリスマスは割と賑やかな感じ

彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。(ルカ2章26-27節)

ローマ皇帝アウグストゥスの命令によって、全領土の住民の人口登録が行われた時のこと。祖先の地に出かけて登録をしなければならぬ。ガリラヤのナザレに住んでいたマリアとヨゼフは先祖ダヴィデの地であるベツレヘムに出かける。マリアの胎には誕生間近の子がいる。人口調査のための旅人で一杯で、宿はどこも満杯。宿を断られ、家畜がいる洞穴を提供された二人。この貧しさの中でマリアはイエスを産んだ。神の子イエスは、この貧しさの中で人となってお生まれになった。そこから彼の人類の救い・十字架への道は始まった。

でお祝いすることが多いと思いますが、私が留学したベルギーなどでは様子が全く異なっており、静かで落ち着いた雰囲気でお祝いするのが通例になっていました。仕事や勉強のために散り散りになっていた家族がこの日だけはみな一堂に会し、同じ食卓を囲みます。そして父親がこの日のために買っておいちちょっと良いワインをどこからか出してきて、「Merry Christmas!」と音頭を取って乾杯して楽しい夕食が始まります。

実家から離れて大学や勤め先に行っている家族がそれぞれ近況報告をしながら談笑します。家族の中には自分のフィアンセを家族に紹介するために連れてきているようなこともあり、まさに“the more, the merrier”（人が多ければ多いほど、より楽しい）という状態になります。そして2時間くらいかけてゆっくり食べる夕食が終わり、子どもたちは待ちに待ったプレゼントをもらいます。少し休憩した後、皆で車に分乗して教会での深夜ミサ（降誕祭）に出かけます。このように欧米諸国ではクリスマスは家族で静かに楽しく祝うものというのが一般的だと思います。これに対して日本ではお金をかけて高級レストランで贅沢に、あるいは仲間同士でパーティをやってどんちゃん騒ぎ、というパターンが見受けられます。他方、日本では正月はみな神妙に「初詣」に出かけますね。これに対し欧米では12月31日はカウントダウンをやって新年にかけて大騒ぎをします。この年末年始のコントラストは面白いですね。

いずれにせよ日本でも欧米でもクリスマスを「メリー」なものとしてお祝いするわけですが、そもそもなぜ「メリー」なのか改めて考えてみたいと思います。

“merry”には「楽しい」とか「愉快的な」という意味がありますが、クリスマスの何がmerryなのでしょう。結論から言うと「救い主」がお生まれになったということがめでたく、merryなのです。アダムとエヴァが楽園から追放されて以来、ユダヤ民族にとって救い主の到来は長年の希望であり夢でした。そしてローマ帝国によって支配されていた当時のユダヤ人たちが待望していたのはローマ帝国からユダヤ民族を解放してくれる力強い王であり、そのイメージは巨人ゴリアテを倒したダビデでした。バビロン捕囚やエジプトでの奴隷生活を経験したユダヤの民にとってローマ帝国から独立させてくれる英雄的な救世主が待ち望まれていたわけです。

ところがその救い主はどのような形でこの世に生まれたのでしょうか。王宮の豪華な一室でしょうか、それともお金持ちが泊まるサービスが行き届いた宿だったのでしょうか。聖母マリアがイエスを産んだのは何と宿の裏手にある馬小屋の中でした。私はスイスで5年間生活しましたので、馬小屋とか牛小屋とかをよく知っています。マリアやヨゼフ達はどれほど家畜の匂いにむせかえったことでしょうか。お二人は飼料葉おけに入れる清潔なワラを見つけるのにもきつと苦労したに違いありません。

救い主イエスはそのような悪辣な環境の中でこの世にお生まれになったのです。人間を救済するため



Pope Francis_@Pontifex

教皇フランシスコのX (Twitter)より

With His words and example, Jesus speaks to us of authority as self-sacrifice and humble service, as both maternal and paternal tenderness toward others, especially those most in need.

に神が遣わされた神の子キリストは、「王たるキリスト」でありながらも、このように最も貧しい姿でお生まれになったのです。このパラドックスはとても意味深長であります。そしてこのパラドックスの中に神の人間に対する愛に満ちた救いのメッセージが込められているように思います。

クリスマスを賑やかに過ごすのもよいですし、大好きな方とおしゃれなレストランでお食事をされるのもよき思い出になるでしょう。でも藤の皆さんには、私たちの救いのために御子イエスを貧しい姿でこの世に遣わされた父なる神の愛に想いを馳せ、クリスマスを心安らかに祈っていただく機会として受け止めていただきたいと思います。

主の平和が皆様一人ひとりと共にありますように。

メリー・クリスマス!

クリスマス・ミサへのお誘い

コロナも落ち着き、生活が普通に戻りました。今年のクリスマスは、それぞれのキャンパスで人数制限などもなく、クリスマスのミサや学生クリスマス会を行います。どうぞ多数ご参加ください。

- ◇ 北16条キャンパス: 12月18日(水)
ミサ 13:00
- ◇ 花川キャンパス: 12月19日(木)
ミサ 13:00

両キャンパスでミサの後に学生クリスマス会があります。